

発刊によせて

グループホームバルムなかにいだ
施設部長 佐藤 晴美

はじめまして、部長をしています佐藤です。第一回ですので、このグループホームが開設するまでの事をお話します。



私事ですが、平成16年に母方の祖母が脳こうそくで倒れました。夫を戦争で亡くし、私の母と母の兄を女手一つで育て、ずっと一人暮らしをしていた祖母でした。和裁で生計を立て、二部屋だけの小さな古い平屋暮らしでしたが、家の中はとても清潔で手入れが行き届いていました。大正生まれの祖母ですが、とてもハイカラでチキンのトマト煮込みが上手でした。

そんな祖母ですが、もう一人暮らしは無理です。ほとんど話をすることができなくなり、認知症と診断されました。祖母にどこで生活してもらおうか、悩みましたが特別養護老人ホームにお世話になることになりました。「えー、特別養護老人ホーム？あんなところに入れるの？」私は昔、ある特別養護老人ホームで実習をしたことがあります。薄暗い部屋に4人も6人も人が押し込められていて、面会に来る人もいない、工場みたいなお風呂、漂う排泄物の匂い…。あんなところに祖母を入れるの？でも、誰も一緒に暮らせる人はいない。

高齢者問題、介護問題が現実のものとなって押し寄せてきます。祖母は、特別養護老人ホームに入所しました。幸いなことに、こちらのホームはできて新しく、とても清潔で、スタッフの方々にもとてもよくいただきました。しかし、やはり「施設」という感じで、「家」ではありません。より自宅のようなところで暮らせたら…。そんなときに認知症高齢者グループホームというものを知りました。これだ。祖母には、ぜひグループホームで暮らしてもらいたい。それから、いろいろなグループホームを見学するうちに自分たちで設立してみようということになりました。

た。

日本で福祉の先進県は広島県や長崎県と言われています。皮肉にも、原爆の悲劇が広島と長崎の福祉を充実させたのでしょうか。ちょうど、会社の知人のついでで長崎のグループホームでいろいろと教えていただけることになりました。うちのグループホームの基礎はこちらで学んだものです。それからは、グループホームの設立に向けて目の回るような忙しい日々が過ぎていきます。

そんな日々の中、結局、祖母は特別養護老人ホームで亡くなりました。



グループホームバルムなかにいだ 全景



普段の生活をそのままに！

当ホームには、HPにもあるように理念はありますが、私の心にはもう一つ理念があります。

「自分のおばあちゃんに暮らしてもらいたいホーム」自分の大切な人に心安らかに暮らしてもらえるような、そんなホームをつくりあげていきたいと思っています。もちろん、まだまだ至らない点もありますが、スタッフ一同一歩一歩前進していけるよう日々がんばっています。